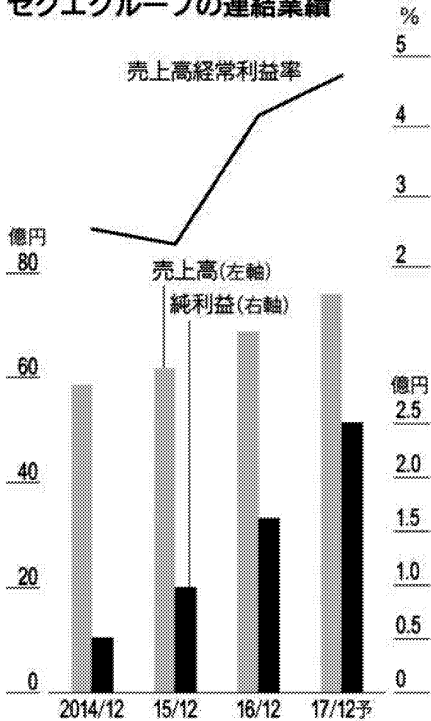


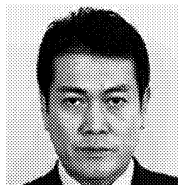
セグエグループの連結業績



セグエグループ (3968)

情報漏洩対策、AIも活用

愛須康之社長

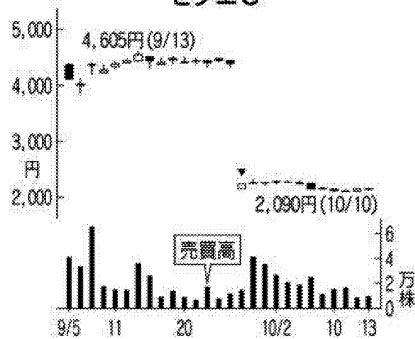


企業や官公庁向けにセキュリティー製品販売やシステム構築を手掛ける。インターネットの普及で企業や官公庁は情報漏洩対策を重視している。販売から保守・運用サービス、自社製品の開発まで幅広く事業を展開するのが強みだ。セキュリティー分野は常に最先端技術に対応する必要があり、人工知能(AI)を活用して企業情報を管理する製品も導入している。国内セキュリティー市場はあらゆるモノがネットにつながるIoTも追い風に年2ケタ成長が続く。2017年12月期は連結純利益で前期比55%増を見込む。

ネット業界では新技術登場は進歩と同時に脅威にもなりうる。AI活用の製品は自動学習機能を備え、過去のウイルス攻撃パターンに対応できるのはもちろん、従業員の行動パターンも把握できる。業務と関係性の薄い行動をいち早く検知することで社内情報の漏洩も防ぐことができる。

近年は自社製品の開発・販売にも力を入れている。「SCVX」というシステムは仮想のネット環境を構築して業務用パソコンを実際のネットワーク環境から分離し、ウイルスに感染しにくくする。地方自治体などで導入が進

セグエG



んでおり、20年の東京五輪に向け政府が推進するサイバーテロ対策需要も取り込みたい。

中長期的に東証1部昇格をめざす。そのためにもまず売上高を100億円まで増やす必要がある。現在は無配で、配当は視野にあるが、1部昇格までは事業で得た資金は自社製品の開発などに振り向けたい。(下村凜太郎)